



## 講演2 「若年性認知症、地域で支えていくために」

講師：大阪狭山市若年認知症家族の会「さくらの会」代表  
坂元 博行 先生  
(サポーター) (公社)大阪府鍼灸師会河南地域会員  
井尻 志郎 先生

坂元博行講師は、奥様が若年認知症にかかり、介護施設でも初めは理解されなかったという経験が話された(既に他界されている)。講演は、『DVD BOOK 認知症の人とともに』(永田久美子監修、沖田裕子編著、クリエイツかもがわ、2016)を区切って放映しながら、要点をまとめたスライドで説明を追加される形式で進められた。

46歳の時に「認知症」と診断されたオーストラリアのクリスティーン・プライデンさんは8年後の2003年に初めて訪日し講演をされた。やがて、日本人にも若年認知症を公表する人が現れた。映像をみると、しっかりした口調で話されているが、話した後どんどん忘れていくので、話す前に、内容を書き出しておくという。

記憶とは何か？

- ①覚える
- ②記憶を保持する
- ③記憶を呼び起こす、からなる。

認知症とは、

- ①意識障害がない
- ②記憶障害の存在
- ③記憶障害以外の認知機能が一つ以上障害されている。

記憶障害以外の認知機能とは、

- ①時間・場所の見当識障害
- ②実行障害・遂行障害
- ③失語 ④失行 ⑤失認を指す。

- 障害は生まれつきのものではなく、いったん獲得した後に低下する事
- 脳の神経細胞が失われたり、脳機能(働き)が低下 認知症は、さまざまな病気が原因で起きる「症状」である。

原因として、アルツハイマー病・脳卒中・ピック病など約70種類以上あり、脳の病気などによって、認知機能が低下して、様々な症状が現れ、生活に支障が出ている状態と定義されている。

### 若年性認知症の特徴と課題

- 発症年齢が若い(64歳以下の発症をさす)。男性に多い。異常には気づくが、認知症と思われず、受診が遅れる。発症症状が、認知症特有ではなく、診断しにくい。経過が急速で、BPSD(行動・心理症状：周辺症状)が目立つ。

経済的な問題。親の介護と重なる。複数介護となることがある。子供の教育・結婚など、家庭内での課題が多い、などである。

### 若年性認知症の支援、制度として、

- ・介護保険を利用するよりも前に経済的な公的支援が必要である。
  - ①精神障害者保健福祉手帳
  - ②障害年金
  - ③自立支援医療「精神通院医療」がある。
- ・制度利用には、初診日が重要となる。

### 地域のサポート 本人・家族の相談

「自分の居場所は、ここだ、というサポートをしてあげたら」  
本人のためのサポート「Living with Memory Loss Program」  
在宅サービス 施設サービス 地域密着型サービス  
地域の居場所 ～ 認知症カフェ、家族会、介護者の会 などがある。

### 地域で支える

- ・「さくらの会」
- ・「おれんじパートナー（認知症ケアを推進する会）」

### 坂元さんの心に残った言葉

「苦しい時の一歩は心細いものですが、その一歩に新しい世界が開けます」  
丹野智文さんの言葉  
「認知症になって 不便ではあるが 不幸ではない」

認知症についての『新オレンジプラン「七つの柱」』が定められている。  
若年性認知症についての知識は、認知症そのものの理解に欠かせないこ  
とがよく分かった。 (学術委員会委員長 三木 完二)